



令和元年度 和歌山大学 学部開放科目

「地域づくりの理論と実践」(第9回 スピンオフ講義)

「円卓の地域主義」と自治体の役割

牧野 光朗 氏 (長野県飯田市長)



Think Globally Act Locally

◎日時：2019年 10月 6日 (日) / 9:00~10:30

◎場所：田辺市上秋津農村環境改善センター (田辺市上秋津2083-1)

◎参加：無料 (資料準備の関係上、参加される場合は事前にお知らせください)

【主催】：国立大学法人 和歌山大学 (観光学部・食農総合研究所)

【共催】：農業法人 株式会社 秋津野

【お問い合わせ先】：食農総合研究所・西岡 (073-457-7126/ nisiokay@wakayama-u.ac.jp)

飯田市長 牧野光朗（まきの みつお） プロフィール

早稲田大学政治経済学部卒業後、日本開発銀行（現日本政策投資銀行）入行。同フランクフルト首席駐在員、大分事務所長を経て、2004年に飯田市長就任、現在四期目。

南信州広域連合長、全国市長会副会長（地方創生担当）、内閣府経済財政諮問会議の専門調査会である経済・財政一体改革推進委員会委員。和歌山大学との繋がりは深く、観光学部の観光教育研究アドバイザーも務める。

大学の教授・学生の要望を受け、平成28年2月に自身の編著書『円卓の地域主義－共創の場づくりから生まれる善い地域とは－』（事業構想大学院大学出版部）を刊行。



Sustainability Diversity

「地域づくりの理論と実践」（江頭ホスピタリティ事業振興財団「寄付講義」）について

【講義概要（シラバスより）】 少子高齢化が進展する日本では、都市と農村との格差が拡大し、農村では“限界集落”が増加するなどの問題が起こっている。しかし、その一方で、食の土台となる第一次産業の営みや農山漁村での暮らしに対する都市住民の関心も高まっている。農村においても「地域資源の活用」「農工商連携」「都市農村交流」など様々な取り組みが進んでいるが、都市農村交流における「鏡効果」の存在は、農山村再生の手法としても大いに注目を集めている。近年、総務省がふるさとの地域づくりを支える多様な担い手として提起した「関係人口（長期的な定住人口でも短期的な流動人口でもなく、当該地域や住民と多様に繋がりを持つ者）」づくりは、まさにこのような交流を土台に広がりを見せている。本講義は、農業・農村の現状に対する「当事者意識」に裏付けられた深い共感と問題関心を有し、かつ新たな地域づくりの担い手として注目される「関係人口」を創出する上でのコーディネーターとしての役割を果たしうるホスピタリティ豊かな地域づくり人材の育成を目的として開講する。

（主任講師：観光学部教授 藤田武弘）